

令和5年度ジャパンリンクセンター運営計画

令和5年4月1日

ジャパンリンクセンター運営委員会

1. 委員会、メンバーミーティングの実施

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会を4回開催し、JaLCの運営方針を議論する。

(2) メンバーミーティング(「対話・共創の場」)

メンバーミーティング(「対話・共創の場」)を開催することで、会員からのニーズを把握できる機会を引き続き設ける。

2. サービスの開発、運用および管理

(1) サービスの開発、調査等

令和5年度は以下について実施する。

① 情報登録機能および情報提供機能の改修

「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」(令和3年4月27日 統合イノベーション戦略推進会議)で提言されている研究データのメタデータ共通項目の内、現状 JaLC では登録できないものについて登録できるようにするとともに、情報提供機能(OAI-PMH 等)でそれらを出力できるよう改修して、NII 研究データ基盤システム(NII Research Data Cloud)に共通メタデータを提供できるようにする。

② Crossref 登録処理の改修

CrossrefにRORを含めた著者所属機関のIDを登録できるようにする。また、助成情報の一部(Crossref Funder IDがない場合)についても助成機関を登録できるようにする。

③ DOI 大量登録対応に係る調査

令和4年度から実施しているDOI大量登録の実証実験の結果を受け、令和5年度はDOI登録数の増大に対するJaLCシステムの問題点の調査・分析を行い、さらに対応方法に関する検討を行うための調査を実施する。

(2) 運用

システム運用、サービス運用業務の一部は、過年度に引き続き外部に委託して実施する。なお今年度は以下を対応予定。

① Java バージョンアップ

令和6年10月にEOLを迎えるJava11についてバージョンアップ(Java17を想定)を行い、新バージョンで正常に動作するように必要な改修を行い、全機能の動作確認を実施する。

② バックアップ機器のリプレース

保守期限を迎えるバックアップ機器について機器をリプレースし、新機器でのバックアップ運用のための設定作業を行う。

3. DOI登録機関連業務

(1) 正会員

過年度に引き続き、正会員の入会対応を行う。具体的には、入会手続き説明、入会審査事務、DOI prefixの払い出し、システムの初期設定、データ初期登録方法の指導などである。併せて引き続き会員へのDOI登録支援として、登録マニュアルの改善やWebサイトにおけるFAQの充実、入会手続きのフロー改善等を検討する。

(2) 準会員

正会員を通じて、準会員に対するDOI prefixの払い出しに係る事務を行う。また、準会員を持つ正会員と協働して、準会員の増加を図りつつ、JaLCが提供するサービスの呼びかけを強化する。

(3) 入会説明会の開催

入会の問い合わせの都度説明会を開催する。

4. その他、JaLCの運営に関する一切の事務

(1) 「研究データ利活用協議会」

「研究データ利活用協議会」の活動は8年目となる。今年度も過年度に引き続きイベント開催などによるコミュニティ醸成を図る。また、小委員会活動、部会活動の支援を継続する。さらにオープンサイエンス関係のイベントである「ジャパンオープンサイエンスサミット (JOSS)」へ引き続き協力機関として参加する。

(2) JaLC イベント

「対話・共創の場」は、ジャパンリンクセンターを支えるコミュニティの醸成のためDOIの活用に関して議論を行うという当初の目的に立ち帰り、より有意義な対話・議論が行える場として活用すべく、今後の開催イベントの開催方法を改めて検討する。一方、JaLC会員からは現行のJaLCの仕組みや取り組みを説明してほしいというニーズが寄

せられていることから、別途、DOIに関する説明会の開催を検討する。これにより、説明会により基本的な知識を得た後、対話・共創の場に参加して発展的な議論を行う流れを構築する。

(3) 会員間のコミュニティの運用開始

コミュニティの形成のため、イベントを実施しているが、DOI登録業務における日々の会員同士のコミュニケーションの促進および問題解決のため、新たなるコミュニティツールを運用する。

(4) メールマガジン「JaLC NEWS」の発行

月1回の会員向けメールマガジン「JaLC NEWS」の発行を通して、サービスリリース情報や規約についての連絡、国内外のDOIに関わる情報発信など、会員に対する必要な情報提供を行う。

(5) 国際機関との関わり

DOI登録機関としてDOI財団の活動に関わる。また、Crossref、DataCite等のDOI登録機関(RA)や他PID組織、学術インフラサービスとの連携強化を引き続き図る。

5. ジャパンリンクセンターストラテジー2023-2027との対応

ストラテジー	アクション	運営計画における対応
1. 国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等に対応したDOIの登録、利活用環境を整備します。	1-1. 日本の学術リソースへのDOI登録インフラ環境を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> 2.(2)運用 2(1)⑤大量登録対応に係る調査
	1-2. 会員への柔軟なDOI登録支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 3.DOI登録機関業務 4.(4)メールマガジン「JaLC NEWS」の発行
2. 学術において必要な様々なリソースへのDOIの登録を促進させます。	2-1. 研究者が利用する様々なリソースへのDOI登録のため、メタデータ登録情報の整備を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 2.(1)①情報登録機能および情報提供機能の改修
	2-2. ユーザーに対し多様なリソースへのDOI登録の利用促進を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 4.(5)メールマガジン「JaLC NEWS」の発行
3. DOIやメタデータ	3-1. 他のIDサービスと	<ul style="list-style-type: none"> 2.(1)②Crossref登録処理の改

のオープンな利活用を推進します。	の連携を行い、学術インフラサービスや学術情報サービスとの連携を強化します。	修 ・ 4.(5) 国際機関との関わり
	3-2. JaLC におけるメタデータ検索機能の充実、DOI の利用状況の提供に取り組みます。	・ 2.(1)①情報登録機能および情報提供機能の改修
	3-3. ユーザーの意見を収集し、研究環境の変化に応じたサービス開発を目指します。	※JaLC 運営委員会(1.(1))にて議論
4. オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用の促進に取り組みます。	4-1. 研究データの DOI に対して、国内外の組織と連携し、研究データ利活用を促進させます。	・ 4.(5) 国際機関との関わり
	4-2. 研究データ利活用協議会(RDUF)との協力関係をより強化します。	・ 4.(1)「研究データ利活用協議会」
5. DOI を活用する学術コミュニティの活性化に貢献します。	5-1. DOI 活用促進のために、イベント等を通じて、DOI の理解を深めると共に、ユーザー同士のコミュニケーションを促進させます。	・ 4.(2)JaLC イベント ・ 4.(3) 会員間のコミュニティの運用開始
6. コミュニティのニーズに応える、透明性の高い持続的な組織運営を目指します。	6-1. DOI が長期的に運用されていくために、DOI 登録を担う日本の学術インフラ機関としてのあり方を検討し、拡充します。	※JaLC 運営委員会(1.(1))にて議論

— 以 上 —